

聖書日課 『からし種』 2018. 4. 1～ 4. 8

| | |
|--------------------------------------|--|
| <p>1日(日) エゼキエル 6章</p> | <p>「そのとき、彼らはわたしが主であることを知るようになる」(14 節)。破壊と荒廃を目の当たりにして、人びとはようやく「主を知るようになる」。自らの破滅を経験しないと神を認めることができない、心かたくなな私たち。その私たちに、何とか「知るようになること」を祈り願っている神がおられる。</p> |
| <p>2日(月) エゼキエル 7章</p> | <p>「主の怒りの日には、銀も金も彼らを救うことができない」(19 節)。徹底した「主の怒りの日」が語られる。ここには救いのかけらも見出すことができない。ただ一つの救いは、このような仕方です。「神が神であること」を何とかして悟らせようとする神は愛の方であるということである。</p> |
| <p>3日(火) エゼキエル 8章</p> | <p>「人の子よ、壁に穴をうがちなさい」(8 節)。エゼキエルは捕囚の地バビロンにいる。その彼が神の霊により幻の中で遠くエルサレム神殿に連れていかれ、人びとが部屋の中で隠れて偶像礼拝をささげている様を見よと示される。すべてをお見通しの神の前で、わたしたちは何を弁解できるだろう。</p> |
| <p>4日(水) エゼキエル 9章</p> | <p>「イスラエルとユダの家の罪はあまりにも大きい。この地は流血に満ち、不正に満ちている」(9 節)。人々の罪に対する主の容赦ない憤りの言葉に胸をえぐられる。私たちが裁く主の言葉は正しい。その中で主は、主の正しさを見つめ、嘆き悲しむ者を探しておられる。</p> |

聖書日課 『からし種』 2018. 4. 1～ 4. 8

| | |
|---|--|
| <p>5日(木) エゼキエル 10章</p> | <p>「神殿は靈に満たされ、庭は主の栄光の輝きで満たされた」(4 節)。イスラエルの人々の深い罪のゆえに、神殿を満たしていた主の栄光が去る。主なる神への真の礼拝が成立していない神殿は瓦礫に等しい。一方、神殿を去った主の栄光はケバル川の畔で捕囚の人々と共にあることが示される。</p> |
| <p>6日(金) エゼキエル 11章</p> | <p>「わたしは彼らに一つの心を与え、彼らの中に新しい靈を授ける」(19 節)。エルサレム神殿の偽指導者たちに対する厳しい裁きを語りながら、エゼキエルはバビロン捕囚の人々に語りかける。主なる神はあなたがたの「ささやかな聖所」(16 節) となって、あなたたちと共におられる、と。</p> |
| <p>7日(土) エゼキエル 12章</p> | <p>「彼らにこう語りなさい。『その日は近く、幻は必ず実現する』」(23 節)。「反逆の家」と呼ばれるイスラエルの人々は、主の言葉を「今、自分に語られている言葉」として聴こうとしない。今日、私たちの間で生きた言葉を語りかけておられる主を「新しい靈」をもって見る者とさせてください。</p> |
| <p>8日(日) エゼキエル 13章</p> | <p>「そのとき、おまえたちはわたしが主なる神であることを知るようになる」(9、21、23 節)。主が語っていないのに『主は言われる』と語る罪に直面し、裁かれる時、私たちは主と出会う。主の裁きは私たちを滅ぼすのではなく、共に生きようという招き。主の言葉にいつも正しく聴く者とされたいと願います</p> |